



TITLE:

心理研究部門(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

室伏, 靖子; 浅野, 俊夫; 松沢, 哲郎

CITATION:

室伏, 靖子 ...[et al]. 心理研究部門(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報 1987, 17: 17-19

ISSUE DATE:

1987-09-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/163755>

RIGHT:

きに対するMT野細胞の反応。第10回神経科学学術集会予稿集：54.

- 9) Mikami, A. : Functions of monkey MT area. 1st International Congress of Neuroethology, Satellite Symposium.
- 10) 三上章允(1986)：ランダム・ドット仮現運動に対するMT野細胞の反応。第10回神経科学学術集会予稿集。
- 11) 斉藤秀明・田中啓治・礎野春雄・安田 稔・三上章允(1986)：視覚中枢MT野の細胞は等輝度色度パターン動きを分析できるか。MEとバイオサイバネティックス研究会，1-6.
- 12) 渡辺栄治・林 基治・松村道一・藤田 忍(1986)：大脳皮質と運動系のニューロンの表面構造を染めるモノクローナル抗体。第10回神経科学学術集会予稿集：108.
- 13) 松村道一・沢口俊之・久保田競(1986)：運動時のサル運動野・運動前野ニューロンの活動とGABA抑制。第10回神経科学学術集会予稿集：78.
- 14) 沢口俊之・松村道一・久保田競(1986)：前頭前野の遅延反応関連ニューロン活動に対するDAとNAの作用。第10回神経科学学術集会予稿集：96.

報 告

- 1) 小嶋祥三(1987)：霊長類の音声知覚に関する研究。文部省科学研究費補助金(一般C)研究成果報告。

心理研究部門

室伏靖子・浅野俊夫・松沢哲郎¹⁾

研究概要

- 1) チンパンジーの図形語による記述行動の分析。一語順による統制一

室伏靖子・浅野俊夫・松沢哲郎

チンパンジー(アイ)に，〔主体〕〔近づく〕〔客体〕の3語記述の訓練を続け，3人登場の場面で，客体を正確に選ぶことをたしかめた。

- 1) 昭和60年6月より62年4月まで，文部省在外研究員として，米国ペンシルバニア大学へ出張。

- 2) チンパンジーにおける数の概念の形成。²⁾

室伏靖子・浅野俊夫・松沢哲郎・板倉昭二³⁾

チンパンジー(アイ・アキラ)に，ドットのランダム・ボタンを見てその数をアラビア数字またはタッピングで同定することを学習させたのち，序数の訓練を始めた。

- 3) チンパンジーの心的回転(mental rotation)に関する実験。

ベルナデット・ブレザール⁴⁾ 室伏靖子

浅野俊夫

チンパンジー(クロエ)に，鏡映図形の間の弁別を見本合せ法を用いて訓練し，図形を回転させてもなお正立図形として同定できることを示したが，その反応時間の変化は，図形によって整一でない。

- 4) チンパンジーにおける刺激等価性の獲得に関する実験的分析⁵⁾

浅野俊夫

ヒトの言語習得過程において，もともと異なった刺激が機能的に等価な性質を獲得する過程が重要であることが明らかにされて来ているので，その過程をチンパンジーで吟味する。

- 5) ニホンザルの集団場面におけるオペラント行動の獲得と伝播。⁶⁾

浅野俊夫

放飼場の若桜群を対象にして，パネルを押すと食物が入手できるという新しい行動を集団場面での条件づけによって形成し，伝播する様子を観察した。

- 6) オペラント強化の性質に関する実験的研究⁷⁾

浅野俊夫

ニホンザルの摂食行動において，摂食スケジュールがオペラント行動の強化子の強化力にどのように関与するかを，エコロジーと環境適応における行動の配分(行動経済)の観点から分析した。

- 7) チンパンジーによる複合図形の「構成」

- 2) 本吉良治(神戸学院大・教養)・山田恒夫(阪大人科)との共同研究。

- 3) 大学院生。

- 4) 招へい外国人研究員。

- 5) 山本淳一(慶大・大学院生)との共同研究。

- 6) 樋口義治(愛知大)との共同研究。

- 7) アラン・シルバーバーグ(アメリカン大学)との共同研究。

松沢哲郎・藤田和生⁸⁾

チンパンジー(アイ)に、複合した幾何学図形を見せ、同じ図形をその要素図形から再構成する課題をおこない、資料の解析をした。有意味図形の方が無意味図形よりも再構成されやすく、構成手順はヒトとチンパンジーで類似していた。

8) 霊長類乳幼児の行動⁹⁾

松沢哲郎

ヒト、チンパンジー、オランウータン、ニホンザルを主たる対象として、出生直後からの姿勢制御と認知機能の発達の種類間比較をしている。

9) 感覚性強化による霊長類の種の認知の研究 藤田和生

霊長類が自身の種や他の近縁種をどのように区別しているかを、それらの写真の強化刺激としての機能に基づいて調べている。86年度にはその発達過程とそれを規定する要因について検討した。

総 説

- 1) 松沢哲郎(1985): チンパンジーの知恵。霊長類の比較発達心理学 6。発達, 23:80-87.
- 2) 松沢哲郎(1985): いれわけーチンパンジーの「自発的分配」ー。霊長類の比較発達心理学 7。発達, 24:82-93.
- 3) 浅野俊夫(1986): 京都大学霊長類研究所の「サル類の飼育管理および使用に関する指針」作成の経緯と概要。霊長類研究, 2: 114-117.
- 4) 室伏靖子(1986): チンパンジーの知恵を探る。ラボラトリーアニマル, 3(6):32-34.
- 5) 松沢哲郎(1986): 分配の美学。霊長類の比較発達心理学 8。発達, 25:58-71.
- 6) 松沢哲郎(1986): アーミッシュ・ストーリー。発達, 26:83-91.
- 7) 松沢哲郎(1986): 野生チンパンジーのくらし。霊長類の比較発達心理学 9。発達, 27: 70-84.
- 8) 松沢哲郎(1986): 霊長類と発達研究ー国際霊長類学会からー。霊長類の比較発達心理学 10。発達, 28:58-70.

8) 学振特別研究員。

9) 田中昌人(京大教育)・竹下秀子(滋賀県立短大・幼児教育)との共同研究。

論 文

- 1) Wada, K. and Matsuzawa, T. (1986): A new approach to evaluating troop deployment in wild Japanese monkeys. *Internat. J. Primatol.*, 7: 1-16.
- 2) Fujita, K. and Matsuzawa, T. (1986): A new procedure to study the perceptual world of animals with sensory reinforcement: Recognition of humans by a chimpanzee. *Primates*, 27 (3): 283-291.
- 3) 熊崎清則・松沢哲郎・松林清明(1986): ビデオセンサーを用いたチンパンジー分娩予知システム。「実験動物」, 35:339-344.

学会発表

- 1) 松沢哲郎・藤田和生(1985): チンパンジーによる「構成見本合わせ」。日本動物心理学会第45回大会, 動心年報, 35:59.
- 2) 竹下秀子・松沢哲郎・田中昌人(1985): 霊長類乳児の姿勢反応の発達。日本動物心理学会第45回大会, 動心年報, 35:45.
- 3) 松沢哲郎(1985): 動物行動の研究における“擬人主義”の復権。日本基礎心理学会第4回大会, 基礎心理学研究, 4:42.
- 4) 武田庄平・南雲純治・浅野俊夫(1986): 好奇行動の影響・促進場面(1): 定常場面。日本霊長類学会第2回大会, 霊長類研究, 2(2):146.
- 5) 山本淳一・浅野俊夫(1986): チンパンジーにおける刺激等価性-対称性(Symmetry)成立要因の分析ー。日本心理学会第50回大会発表論文集: 334.
- 6) 室伏靖子・浅野俊夫(1986): チンパンジーにおける数(1-7)の獲得。日本心理学会第50回大会発表論文集: 336.
- 7) 藤田和生(1986): 霊長類における種の認知ーマカック5種の比較ー。日本霊長類学会第2回大会, 霊長類研究, 2(2):188.
- 8) 藤田和生(1986): チンパンジーの短期記憶再生。日本心理学会第50回大会発表論文集: 335.
- 9) Matsuzawa, T. (1986): Spontaneous sorting in man and chimpanzee. Symposium; “Cognitive and neurological development from evolutionary and adaptive perspectives.” at the XI th Congress of the International Primatological Society.

Primate Report, 14: 180.

- 10) Matsuzawa, T.(1986): Pattern construction by a chimpanzee. 11th Congress of the International primatological Society. Primate Report, 14: 225-226.
- 11) Matsuzawa, T.(1986): Spontaneous pattern construction in a chimpanzee. The symposium "Understanding chimpanzees" in Chicago Academy of Science.

社会研究部門

川村俊蔵・鈴木 晃・森 梅代¹⁾

研究概要

- 1) インドネシア・シボラ島における各種霊長類の社会・行動学的研究のまとめ

川村俊蔵

スマトラ島南のシボラ島に生息する *Macaca pagensis*, *Presbytis potenziani* 他2種の観察を1985年に行い、特に行動型からの系統的関係について資料を集め、本年はその考察とまとめを行った。

- 2) スマトラにおけるブタオザルの社会学的研究

川村俊蔵・大井 徹

従来、世界的に研究の遅れているブタオザルの長期的社会学的研究をスマトラにおいて続行した。

- 3) 木曽研究林におけるニホンザルの群れの社会学的研究

川村俊蔵

ニホンザルに関しては、木曽研究林において、社会学的研究を続行した。

- 4) オランウータンの社会学的研究

鈴木 晃

1983年から行っているインドネシア・東カリマンタン・クタイ保護区において、オランウータンの社会構造に関する現地調査を1986年8月～10月に行った(海外学術調査 隊長田川日出夫・鹿児島大)。

- 5) クタイ保護区における各種霊長類の社会・生態学的研究

鈴木 晃

1983年の大山火事後、森林は二次林化による回復過程が進行中であるが、ここでの霊長類9種の群れの分布・構成を現地調査した。特にテナガザルの群れ構成と行動域の研究を中心に行った。

- 6) 志賀高原横湯川流域のニホンザルの社会学的資料の蓄積

鈴木 晃

上信越ニホンザル研究林及び横湯川流域に生息するニホンザル各群の社会学的資料の蓄積を行った。

- 7) ニホンザルの社会的発達に関する研究

森 梅代

幸島群を中心にメスの育児行動、離乳期前後の母子の相互交渉の変化、および社会関係の変化などを継続的に調査している。特に餌条件の比較的きびしい離乳期に赤ん坊はどのように母親に追随し、また母親は赤ん坊の世話をどのようにしているかを調べ、生後2～3カ月以後の赤ん坊の死亡と母子間の相互交渉との関連を分析している。

総 説

- 1) 森 梅代(1986): ニホンザルメスの社会的発達と社会関係。動物—その適応戦略と社会, 11: 1-93. 東海大学出版会。

報告・その他

- 1) Kawamura, S. and Megantara, E.N.(1986): Observation of primates in logged forest on Sipora Island, Mentawai. Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates, 5: 1-12.
- 2) Suzuki, A.(1986): The ecological survey on the effects of the forest fires and droughts in 1982-83, and the distributions and populations of primates along the middle-upper streams of Sungai Sengata in Kutai National Park, East Kalimantan, Indonesia. Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates, 5: 13-22.
- 3) Suzuki, A.(1986): The socio-ecological study on the orangutans in the Mento-ko-Bt. Sinara study area, in Kutai

1) 教務職員